

小児在宅ケア研究会会報

第 16 号 2021 年 10 月 1 日

小児在宅ケア研究会 <http://hc-cf.jp/>

小児在宅ケア研究会第 16 回年次集会の報告

この号の内容

- 1 小児在宅ケア研究会第 16 回年次集会の報告
- 2 2021 年度の総会報告
- 3 運営委員より
- 4 編集後記

COVID-19 の影響を受けはじめ、1 年半近くになるうとしております。ワクチン接種がすすみ、重症者数は減少しているとは言われておりますが、第 5 波の感染者数はこれまで以上の数でした。感染者数が現在は急激に減少したとは言え、第 6 波が来ることも予測されており、まだまだ気を抜くことができない日々が続きます。しかし様々な新薬の開発も進んでいるようですので、少しずつ状況が改善していくことを願うばかりです。

さて、昨年度は COVID-19 の影響を受け 2021 年 8 月 21 日（土）に小児在宅ケア研究会第 16 回年次集会をオンラインにて 104 名の方にご参加頂き開催いたしました。年次集会のテーマは「一緒に考えよう、子どもと家族、そして私たちの体験」として、事例報告 1 件、活動報告 4 件、そして講演では、豊橋創造大学の蒔田寛子先生に「場の特徴から捉える在宅看護」についてお話を頂きました。

事例報告では、NICU に入院している先天性疾患のお子さんの在宅移行に関して、地域を含めた多職種連携を丁寧に行われた事例の報告がされ、積極的な取組に対し参加者の関心も高く、様々な意見交換がされました。活動報告 4 件に関しては、COVID-19 の影響を受けながらも継続された看護に関するお話や、在宅療養を行っているお子さんやご家族に対する様々な支援に関する発表が行われました。このような状況の中でも、それぞれの施設でお子さんやご家族に対し、最善の看護を提供する努力がされている様子があり、実践で働いている看護師のみなさまへの感謝の気持ちを改めて感じることができました。講演では、蒔田先生から成人や高齢者に関する訪問看護の実際について、非常にわかりやすくお話を頂くことができました。対象者が異なっている、看護の本質が同じであることを再確認する事のできるよい機会となりました。

初めてのオンライン開催という事で、準備に時間がかかり、資料および当日の Zoom の URL の配信が遅くなり、中にはそれらが手元に届かなかった方も数名いらっしゃったようで、大変ご迷惑をおかけいたしました。しかし、年次集会当日は大きなトラブルなく、最後まで修了する事ができましたことにつきましては、参加して頂きました皆様のご協力があったの事だと思っております。ご参加頂きましたかた、本当にありがとうございました。

今回ご参加頂いたみなさまには、事後アンケートにご協力頂いておりますが、今回の年次集会全体に関して 72%の方から「大変満足した」と回答を頂き、残りの方も全て「少し満足した」とご回答頂いており、何らかの形で皆様のお役に少しでも立つことができたのではないかと考えております。年次集会のプログラム及び年次集会参加者の方アンケート結果を同封させていただきますので、内容をご確認頂けますようお願い申し上げます。

対面での年次集会を開催する日が来ることを願いつつ、第 16 回の年次集会の報告を終了させていただきます。

文責 小児在宅ケア研究会副会長 京都橘大学看護学部 堀妙子



2021 年度第 17 回総会の報告

第 17 回小児在宅ケア研究会総会が、年次集会と同日の 8 月 21 日に開催されました。議事の中では、現在の会員数（137 名）の報告、2020 年度の活動報告が行われました。その後、2020 年度の決算・会計監査（案）、2021 年度の活動計画（案）、2021 年度の予算（案）、運営委員の改選に関する審議が行われ、全ての事項について承認が得られました。詳しくは、同封させて頂きました総会資料、議事録等をご覧ください。

運営委員より



『訪問看護師の体験』

医療法人泰玄会 小川絵麻

新型コロナウイルス感染者が、日本でも出始めたころ、私は医療的ケアを必要とする利用者を多く訪問する訪問看護ステーションで勤務していました。第 1 波禍では、医療的ケアを必要とする方々が利用できるサービスが休業、次にはショートステイが休業、利用者の活動の場が断たれ、生活の全てが介護者の肩にのしかかってきていました。最初の緊急事態宣言が出ると、ウイルスを持ち込むリスクがあるため、訪問を休んでほしいという利用者が増え、利用者の呼吸状態の変化など体調維持への心配、介護負担の急増が危惧された事態となりました。社長、管理者がきめ細かい感染症対策を対応していたことを思い出します。万一自身が陽性者となったら、小規模ステーションでは運営の危機を招くのではという不安を抱えて訪問業務をしていたことを思い出します。

現在は、高齢者を多く訪問するステーションに勤務しています。面会ができないからと入院を拒否する事例や、入院中面会ができない為、退院後の生活のイメージができない状態で退院となり、退院後の家族の不安の増大や再入院率が高くなっていると感じる状況が続いています。先が見えない日々はまだ続きます。万一、サービス停止となった時どうするか、これは災害対策に通じると感じ、常に利用者・家族や話し合うことの大切さ、ケアマネや他サービス提供者との横のつながりの強化の大切さを感じています。

編集後記

会報第 16 号が完成致しました。昨年度はコロナの影響で活動ができませんでしたが、今年度は小児在宅ケアコーディネーター研修会も含めてオンラインにて年次集会を開催することができました。オンラインだったから参加できたという方もいらっしゃる、オンラインのメリットも感じつつ、対面での年次集会等が開催できるとよいと願う日々です。皆様も引き続き大変な時間を過ごされていると思いますが、ご自愛ください。

また、年度末に連絡先が変更となる予定の方、退会を希望される方等につきましては、恐れ入りますが、下記の小児在宅ケア研究会事務局までお知らせください。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。

小児在宅ケア研究会事務局（京都橘大学看護学部：担当 定森・伊藤・堀）

E-mail chc@tachibana-u.ac.jp FAX 075-574-4266

